

人権・同和教育推進大会 講演会

テーマ / 部落差別の現状と課題 —今後の展望と人権教育のあり方—

講師 / 内田 龍史 さん (関西大学社会学部教授)

6月17日(火)、尼崎市教育・障害福祉センター視聴覚室にて開催しました。

関西大学社会学部教授の内田龍史(うちだ りゅうし)さんに、①差別と社会—マジョリティ・マイノリティ関係から ②部落差別問題とは? ③部落差別の現在 ④部落差別学習の意義 という4つのテーマについて差別のメカニズム(下図)を参照しながらお話していただきました。

社会によって違う「あたりまえ」を理解し、尊重することが大切であること、「よくわからない」ことへの不安が差別の原因になってしまうこと、偏見や悪意に満ちた情報にだまされないように、人権学習や部落差別学習で正しい知識を得なければいけないこと(差別を知って差別をしない)など、部落差別を克服するために私たちができることを、事例をあげてわかりやすくお話してくださいました。

最後に、「今日のキーワードは“不安”です。色々な形で不安をもってしまい、その不安を煽るような人たちもいます。けれど、それに対して人を差別することではなく、人権学習・部落問題学習といった教育の力、また、であいや学び、経験を重ねることで不安を解消し、みんなが楽しく共に生きていける社会をつくっていくことが、これからの課題だと思います。皆さん一緒に頑張りましょう」と締めくくられました。

参加された方からの感想を紹介します

- 「悪意のない差別」本人が気付かないうちに差別をしているという事に考えさせられました。マイノリティの人たちが声をあげたことで、社会が少しずつ変わってきたことを忘れてはいけません。
- 「悪意のない差別」が増えない様に、差別の事実を知ることが大切だと思いました。「寝た子を起すな」論者にならないように、授業で説明していこうと思います。
- インターネットやSNSでの情報についての現状、課題がよく理解できました。AIを正しく理解し、活用方法については十分注意していかなければいけない。最後は自分自身が正しく判断する力をもたないといけない。差別のある現状を打破、解決に努めていきたい。



▲差別のメカニズム (福岡県人権啓発情報センター2023)

※YouTube で詳しい説明をご覧いただけます。



講演の内容は年度末発行の「尼同教この1年」に収録予定です。詳しくは尼同教事務局までお問い合わせください。



夏休み親子人権学習

戦後80年のこの年に、親子で戦争について考える

—広島8月6日 原爆を見た日—

7月30日(水)、尼崎市教育委員会社会教育課主催の「夏休み親子人権学習」が、尼崎市教育・障害福祉センター視聴覚室で開催されました。

当日は14組の親子(中にはおじいちゃんおばあちゃんも♪)など、計38人が参加し、被爆当事者の実体験を描いた紙芝居「11歳の夏」や生徒の作業中に被爆し、亡くなった女学校生徒の青春と、残された親たちの悲しみをドキュメンタリーで綴ったアニメーション「夏服の少女たち」を視聴し、社会教育指導員である横井哲男さんのお話を聞きました。

子どもたちは真剣な眼差しで受講、原爆の恐ろしさを知り、絶対に戦争はしてはいけいと理解を深めていました。

保護者からは「戦争を知らない子どもたちにもっと伝えていくべきだと思った」「戦争は繰り返してはいけない、二度とおこしてはいけないことだと、みんなで感じ、考えなければいけないことだと思う」といった感想がありました。



人権文化をすすめる県民運動

ひょうご・ヒューマンフェスティバル2025 in あまがさき

同時開催 / じんけんを考える市民のつどい

8月9日(土)、「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2025 in あまがさき」が尼崎市記念公園ベイコム総合体育館で開催されました。ひょうご・ヒューマンフェスティバルが尼崎市で開催されるのは26年ぶりとのことです。



また、尼崎市で例年実施している事業「じんけんを考える市民のつどい」も同時開催されました。戦後80年でもある今年は、戦場カメラマンでフォトジャーナリストの渡部陽一さんによる「戦場の現場から~人権・平和・命の大切さ、互いを敬愛することのすばらしさ~」をテーマとして人権講演会が実施されました。

他にも、広い会場いっぱいさまざまな人権課題をテーマとした多彩なイベントが催され、来場者は楽しみながら学びを深めていました。

